

地域再生計画認定申請書

平成 16 年 10 月 15 日

内閣総理大臣 小泉 純一郎 殿

愛知県江南市長 堀 元

地域再生推進のためのプログラム 5 . (1) に基づき、地域再生計画の認定
を申請します。

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

愛知県江南市

2 地域再生計画の名称

「花いっぱい・元気いっぱいのまち 江南」再生計画

3 地域再生の取組を進めようとする期間

認定を受けた日から平成 26 年度まで（概ね 10 年間）

4 地域再生計画の意義及び目標

現状

本市は、濃尾平野の北部、清流木曽川の南岸に位置し、市域は、東西 6.1km、南北 8.8km、面積は、30.17 平方キロメートルである。昭和 29 年 6 月 1 日に市制が施行され、丹羽郡古知野町、布袋町、葉栗郡宮田町、草井村が合併し誕生した。現在の人口は 100,226 人（平成 16 年 4 月 1 日現在）である。地形は極めて平坦で、肥沃な土壌、温暖な気候と美しい自然環境に恵まれており、古くから織物業が盛んであり、高級カーテン地・室内装飾織物では全国的にも大きなシェアを誇っている。

また、中部圏の中心都市である名古屋から 20 km 圏内にあること、名神高速道路の小牧インターチェンジや東海北陸自動車道にも近いこと、名鉄犬山線の江南・布袋の両駅を有するなど、地理的条件や交通の便にも恵まれており、人口も緩やかではあるが増加傾向にあり、都市化・住宅地化が進んでいる。

しかしながら、少子高齢化や地方財政の硬直化といった社会経済情勢の急激な変化は、江南市にも多分に影響しており、中心市街地の空洞化など地域の経済に暗い影を落とし、今後も楽観できないものと思われる。

毎年、藤まつりを始めとする様々なイベントが催されるが、その観光客や参加者は減少傾向にあり、イベントがない時期には、賑わいに欠けるような状況にある。

今後の取組

こうした状況の中で、運動公園や宿泊施設、芝生広場などが点在し、水と緑の自然環境が豊かで、休日には多くの人たちが集まる木曽川河川敷において、平成 19 年度には、国営木曽三川公園（仮称）花き園芸植物園が開園される予定となっている。

江南市には、曼陀羅寺（藤、菊）、音楽寺（紫陽花）、木曽川堤や五条川（桜）すいとぴあ江南（桜、花菖蒲）など花の名所が多く存在し、また、ポインセチアなどの花きの栽培も盛んであることから、「花」をキーワードとした様々な事業を展開し、住民一人ひとりが「花」に関心を持ち、空間があれば少しでも花を栽培するなど、まち全体を花で埋め尽くし、地域住民が花を楽しみ、笑顔と活力が満ちあふれることで、多くの観光客が江南市を訪れたいくなるようなまちづくりを進め、「花いっぱい 元気いっぱい」のまち江南を目指していきたい。

また、平成 20 年度には長きにわたり市民病院の役割を果たしてきた 2 つの厚生連の総合病院が統合され、新たに郊外に建設される予定であるが、病院のこの統合は、地域交通に大きな影響を及ぼすことが懸念され、来院する人の足の確保が求められる。そこで、地域住民や江南市を訪れる人の移動を容易にし、お年寄りの社会参加や他市町との交流人口の増加を促すため、新病院と駅、公共施設、ショッピングセンター、史跡等を結ぶコミュニティ・バスの運行を図る。これによって、駅、病院、ショッピングセンターなどを結ぶことで、中心市街地の活性化及び交流人口の増加による地域経済の発展を目指す。普段は、住民の足として活躍するコミュニティ・バスを、藤まつりなどのイベント開催時には、駅、国営木曽三川公園（仮称）花き園芸植物園、花の名所などと結び、運行することで、観光客の足を確保するとともに、交通渋滞の解消や環境にやさしいまちづくりに寄与できるものとする。

以上、少ない地域資源や観光資源をより有効に活用しながら、市内の観光の振興や美しい景観の形成を図るよう様々な事業を推進し、併せて、地域交通の確保を図る。

江南市の地域再生計画では、次の 3 つの目標を柱として、住民や観光客の笑顔であふれるような魅力と活力があるまちづくりを目指す。

目標

目標 1 国営木曽三川公園（仮称）花き園芸植物園を中心とした木曽川河川敷の一体感の醸成

木曽川河川敷は、隣接する一宮市には 138 タワーパークが、対岸の岐阜県川島町には河川環境楽園が存在し、平成 19 年度には、江南市において国営木曽三川公園（仮称）花き園芸植物園の開園が予定されるなど、豊かな自然の中で多くの人たちでにぎわう国営木曽三川公園の三派川地区として、今後の発展に期待がされる地区である。

また、この地区を流れる宮田道水路は、オープンの用排水路であり、その危険性が指摘されており、国営木曽三川公園（仮称）花き園芸植物園の開園に合わせて、国営新濃尾土地改良事業における用排水施設の暗渠化により、その機能回復と快適で安全な緑道としての利用が期待されている。

さらに、総合運動公園である蘇南公園や宿泊施設を備えたすいとびあ江南、芝生広場などが点在している地区でもあり、それらの施設を結ぶサイクリングロード（遊歩道）の整備を行い、各施設を有機的に結合することで、移動しやすくするなど、この地区全体の一体感の醸成に努める。また、サイクリングロード（遊歩道）には花を植え、訪れる人達の目を楽しませ、河川敷には休憩施設の設置や、遊歩道には里程標を設置するなど、花と緑の散策道として訪れる人がリラックスやリフレッシュできる空間を整備する。

このサイクリングロード（遊歩道）は最終的には隣接する一宮市、扶桑町の遊歩道と接続させることで、新しい散策の名所となり、全国へ発信することで多くの人々が訪れることが期待される。

すいとびあ江南周辺の土地を利用し、「花の駅」（停留所）とし、ポケットパークの整備、アスレチック施設や花時計を設置するなど家族連れや子どもが楽しめる遊び場を整備する。また、朝市などを開催し、花のシーズンには、市の特産品である花きを、また、ねぎ、なばな、大根、白菜、清酒、和菓子等の販売を行い、天候の良い日には、オープンカフェを開設するなど、訪れる人たちがゆっくりとした時間を過ごし、心から楽しんでもらえるような空間を創り出す。そうしたことで、地域の活性化につながり、地元住民が連携し、元気に活動することを期待する。

近くには、蘇南公園などの充実した運動施設があり、それを活用し、老若男女がいろいろなスポーツを楽しめ、健康でいられるよう施策の推進を図る。

目標2 コミュニティ（イベント）・バスの運行による「花の駅」等の連携

江南市には、桜で有名な尾北自然歩道や布袋の大仏、藤まつりや菊まつりで賑わう曼陀羅寺、紫陽花の音楽寺、桜や花菖蒲のすいとびあ江南など花の名所が多く存在する。これらの花の名所を「花の駅」（停留所）と名づけ、藤まつりなどイベント開催時には、平成19年度開園予定の国営木曽三川公園（仮称）花き園芸植物園等の「花の駅」と市の玄関である江南駅などとコミュニティ・バスをイベント・バスとして結ぶ。

「花の駅」においては、朝市やフリーマーケットを開設し、特産品である花き、ねぎやなばな、白菜、大根、清酒、などの販売を始め、地元農産物を使った料理の提供などを行えるような環境の整備を推進する。また、オープンカフェなどの設置や各種パレード、大道芸の披露、花を使った様々なイベント等を行うことで、「花の駅」を訪れる人たちが、楽しくゆっくりとした時間を過ごすことのできる場を設ける。これら「花の駅」の連携により、地元住民を始め、多くの観光客等が花をテーマとしたイベントに訪れるようになる。

曼陀羅寺の藤の花は、市の花であり、市の大きなイベントである藤まつりには欠かせない存在であるが、近年、その咲き具合に少し元気が無いため、専門家の意見を聞くなど、藤の花の保護と養生に細心の注意を払い、藤まつりの開催時には、訪れる人達の目を楽しませ、心を和ませるような見事な花が咲き誇るよう努める。

このほか、平成 20 年度に開院が予定されている新病院は、現在の 2 つの総合病院が統合されてできることもあり、その来院者の増加と集中が予想される。新病院は名鉄沿線から少し距離があり、利用者の利便性を図るため、そこへの移動手段の確保が必要となる。こうしたことから、イベントが開催されていない時期においては、前述のコミュニティ・バスを新病院、駅、公共施設やショッピングセンター、史跡などと結び、地域住民や市外から訪れる人たちの足として利用できるようにする。

病院の利用者のみならず、地元住民や江南を訪れる人々が利用しやすい運行方法を検討し、お年寄りの社会参加を促すなど、まち全体が活気にあふれるよう事業を推進する。また、他市町からの来院も多く見込まれることから、近隣市町とも連携し、新病院へのアクセスを検討する。

これに合わせて、名鉄江南駅の橋上駅化及びバリアフリー化を進め、中心市街地の活性化及び交流人口の増加による地域経済の発展を目指す。

また、この新病院の近辺の公園には、たくさんの種類の花を植栽し、リハビリの場としても利用できるよう整備を進める。

目標 3 休耕農地等を利用した美しい景観の形成

市内に点在する休耕農地等を有効利用して、れんげやコスモスなどの景観形成植物を栽培し、1 年中花いっぱいのまちづくりを行うとともに、新しい花の名所として市外に発信し、多くの人が訪れ、まちに賑わいが増すよう努める。

また、市民菜園も増やし、花や農作物等の栽培を楽しんでもらい、生きがいづくりや健康づくりを推進する。

以前から取り組んでいる花いっぱい運動をさらに拡大し、駅や病院、商店街など公共性の高い施設ばかりでなく、自宅の玄関やベランダ、庭などにも一年中花が絶える事なく咲き続けるよう花の栽培を依頼するなど PR に努める。

市民の憩いの場となっている公園や主要地方道についても、花の苗を提供し、花壇の整備を行うなど、アダプト制度を活用した事業を展開する。また、ガーデニング講座や園芸についての情報等を市の広報紙を通じて行い、植栽経験の少ない人たちにも興味を持ってもらえるよう努め、住民と行政の協働による花のあふれるまちづくりを推進する。

市内において、暗渠化が進められている排水路について、その整備が終了した後に、水路の上部を緑道などとして整備し、花壇の整備や、プランターを並べたりすることで、美しい景観の形成に努め、併せて、市民の憩いの場や健康づくりのための散策道として、活用できるよう事業の推進を図る。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

特産品販売は、地産地消につながるとともに、農家と消費者が直接接することから、農家は消費者のニーズを把握でき、創意工夫するようになり、農業の活性化にもつながると考える。

曼陀羅寺ではゴールデンウィーク前後に「藤まつり」が開催されるが、国営木曾三川公園（仮称）花き園芸植物園の開園する平成 19 年度には、花の駅を始め観光名所や史跡等と連携し、イベントを開催することで、100 万人の観光客（平成 16 年 62 万人）を目標とし、地域経済の発展を促す。

サイクリングロード（遊歩道）の整備やコミュニティ（イベント）・バスの運行により、植物園と花の名所、その他の施設等が結ばれ、今までは点であったものが線や面でつながり、結果、地元産業の活性化や消費の拡大、市外県外へのアピ - ル、新たな観光ルートの開拓など地元経済への波及効果は非常に大きいと考える。

国営木曾三川公園（仮称）花き園芸植物園の開園する平成 19 年度には、市の宿泊施設であるすいとぴあ江南の稼働率（平成 15 年度 66.7%）の 10%アップを見込み、地域経済への効果を期待する。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

- 201001 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化
- 212002 道路占用許可弾力化（オープンカフェ等）
- 212018 コミュニティ・バス、乗合タクシーの許可に関する基準の弾力化等
- 212028 まちづくり交付金の創設

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業 特になし

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項 特になし

別紙 支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容、支援措置を受けようとする者及び支援措置を講じようとする日

別紙

1 支援措置の番号及び名称

201001 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化

2 当該支援措置を受けようとする者

愛知県江南市、イベント運営協議会等

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

市内に点在する花の名所を「花の駅」(停留所)と名づけ、そのシーズンには、朝市やフリーマーケットを開設し、特産品である花き、ねぎ、なばな、大根、白菜、清酒、和菓子などの販売を始め、地元農産物を使った料理の提供などを行えるよう施策を推進する。また、オープンカフェなどの設置や各種パレード、大道芸の披露、花を使った様々なイベント等を行うことで、「花の駅」を訪れる人たちが、楽しくゆっくりとした時間を過ごすことのできる場を設ける。また、イベントを盛り上げることで、観光客の集客力を強化できるなど地域の活性化に寄与できる。

従来から行われているイベント等においても、阿波踊り等各種パレードの規模をより大きくして、まつりを訪れる人により楽しんでもらえることが可能となる。

なお、上記のイベント等の実施に当たっては、当該支援措置により発出された通達に基づき、地域住民や道路利用者等の合意形成の円滑化に努める。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212002 道路占用許可弾力化（オープンカフェ等）

2 当該支援措置を受けようとする者

愛知県江南市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

江南市では、桜、藤、紫陽花、花菖蒲、菊などさまざまな花が、人々の目を楽しませ、そのシーズンには、多くの地域住民や観光客で賑う。そうした花の名所を「花の駅」（停留所）と位置づけ、シーズン中には、朝市やオープンカフェを開設することで、「花の駅」を訪れる人たちに楽しんでもらい、ゆっくりとした時間を過ごしてもらえるような憩いのスペースを創出するとともに、地域住民や事業者の経済活動を行う場所を提供することが可能になる。

また、各種イベントの開催時には、イベント会場周辺において朝市やフリーマーケット、露店などの出店を行い、大道芸の披露や花を使った各種イベントを実施するなど、会場を訪れる人たちを楽しませ、活気にあふれ、賑わいのあるまちづくりに資することができる。

国土交通省から発出されるガイドラインを活用して、訪れる人が増え、地域の活性化が期待されるような様々なイベントの開催を検討していきたい。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212018 コミュニティ・バス、乗合タクシーの許可に関する基準の弾力化等

2 当該支援措置を受けようとする者

愛知県江南市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

江南市では、平成 14 年 1 月から、全国でも珍しい、空車タクシーを利用したコミュニティ・タクシー「いこまい C A R」の試行運行に取り組み、現在では年間約 5 万人の利用実績があるが、今回は、

平成 19 年度に開園予定の国営木曾三川公園（仮称）花き園芸植物園と花の名所である曼陀羅寺、音楽寺などを NPO 法人等によるコミュニティ（イベント）・バスで結び、藤まつりなどイベント開催時には、地元住民やイベントを訪れる人達が、花の名所を巡り、楽しい時間を過ごすことのできる環境づくりに努める。

また、イベント期間中の交通渋滞の緩和など環境に配慮したまちづくりを推進する。

平成 20 年度の新病院の開院を契機として、病院、駅、公共施設、ショッピングセンターのほか、江南市にある史跡（信長にまつわる久昌寺）などを、NPO 法人等を活用したコミュニティ・バスで結び、地域住民や他市町から訪れる人たちの足を確保し、ショッピング施設などへの集客力を強化することで、地域経済の活性化に寄与できる。

また、近隣市町との連携を視野に入れ、運行内容を検討する。

当該支援措置を受けることで、利用客の利便の向上、手続き負担の軽減等を図ることができ、観光客の拡大とお年寄りの積極的な社会参加を促すことが可能となり、地域の活力の増進や地域経済の活性化などに期待ができる。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212028 まちづくり交付金の創設

2 当該支援措置を受けようとする者

愛知県江南市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

平成 17 年度以降に以下の事業を実施することを検討する。

サイクリングロード（遊歩道）整備事業（平成 18 年度～平成 22 年度）

木曾川河川敷に点在する蘇南公園、江南緑地公園（草井・中般若）、すいとびあ江南と平成 19 年度開園予定の国営木曾三川公園（仮称）花き園芸植物園を結ぶサイクリングロード（遊歩道）を整備し、誰もが行き来できるような一体的な空間を創出することで、新たな「花」の観光スポットとして人の交流が活発化するとともに、地域住民の憩いの場としても賑わいが増すなど、地域全体が元気になり、地域経済の活性化にも資するものとする。

「花の駅」整備事業（平成 18 年度～平成 19 年度）

「花の駅」（停留所）として、すいとびあ江南周辺の土地を利用して、ポケットパークの整備、アスレチック施設や花時計の設置など、訪れる人が楽しめるような空間を創出し、花きなどの農産物が販売できる施設も整備するなど、休日には家族連れがあふれ、地域の活性化に努める。

また、他の「花の駅」においても同様の整備を行う。

曼陀羅寺藤棚整備事業（平成 18 年度～平成 19 年度）

藤の花は、市の花であり、曼陀羅寺で開催される藤まつりには欠かせない存在である。しかし、最近はその咲き具合に少し元気が無いため、専門家の意見を聞くなど、藤の花の保護と養生に細心の注意を払い、藤まつりの開催時には、訪れる人達の目を楽しませ、心を和ませるような見事な花が咲き誇るよう努める。

名鉄江南駅橋上駅・バリアフリー化事業（平成 19 年度～）

江南駅は、1 日約 2 万 5 千人の乗降者があり、名鉄犬山線の主要駅ともいえる存在で、市の玄関である。しかし、現在、バリアフリー化がされていないため、お年寄りや体の不自由な人にとっては、利用しにくい状況にある。そのため、江南駅の橋上駅化を行い、エレベーターの設置を始めとするバリアフリー化を実施する。

主要市道結節点として、このような整備は、地域住民や観光客等に対して、利便性の向上が図られ、新しい人の流れを生み、また、まちに人が集まり、経済の活性化にもつながると考える。